

# 青春を奪われた

### 徹底追及

## 統一協会

### 信者二世編Ⅲ

統一協会（世界平和統一家庭連合）信者の親が集団結婚して生まれた「祝福二世」の女性Aさん（30代）は、子どものころから信仰を強いられ生きてきた。

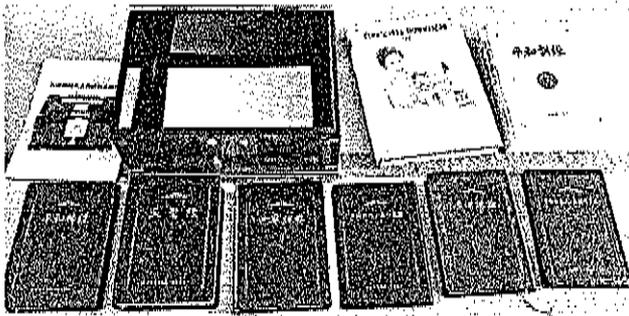
「バイトをしたり、旅行をしたりなど普通の青春を送れませんでした。将来について考える時間もなかったです」とAさんは振り返ります。

幼いころから祈りや断食、学生になってからは統一協会の学生団体であるOARP（原理研究会）で、二世の募金活動などもやらされました。自由に恋愛をするということもできませんでした。

### 搾取され続け

そんなAさんは、18歳で開祖・文鮮明が相手を決める集

## 集団結婚で海外へ



Aさんの親戚にある統一協会の「原理講義」など教義や開祖の肖像を記した書籍。これらを得るには高額な献金が必要だ。（挿絵写真）

団結婚をします。

「ずっと恋愛が禁止されていたため、誰かを好きになりたい気持ちが強く、若くして祝福を受ける人が多かったです」

夫は海外に暮らしています。大学を卒業してから夫のいる国へ向かいました。その

間に夫に会えたのは3回だけ。OARPの活動で忙しい、旅費をたためる時間がなかったといえます。

統一協会は、結婚相手を決めるだけで、ビザや渡航費用を用意しません。Aさんらは、日本で夫婦生活を送っていないため、ビザを取るのも一苦労。国際カプルのプロクを見ながら、ひとりで準備しました。

夫は学生でまともな収入はありません。言葉もままならず、右も左も分からない土地で出産。その直後から生活費を得るためスナックで働きました。

一着に暮らしていた義両親も統一協会の信者でした。しかし、日本と比べて高額な献金がなく、先祖の怨念を解くなどと称する「先祖解怨」かいおん」の金額も安いことにショックを受けました。

それでも、周りの家庭と比べて貧しく、Aさんは毎月義両親に6万円の生活費と、孫の世話代として数万円を払い

ました。さらに、夫の奨学金ローンを支払うと、手元に残るお金はわずかだったといえます。

「スナックに来るお客さんはみんな幸せそうなのに、どうして自分は搾取され続けているのだろう。文鮮明が望んでいることなのか」

### お金を借りて

洗脳され、信じていれば救われると思っていたAさんでしたが、夫の奨学金ローンは1000万円に膨らんでいました。

「このまま生きていたら自分の人生を楽しめない。子どもも苦労する」。離婚を決意します。

しかし統一協会では離婚がタブーです。母親は、Aさんの離婚の話聞き駆け付けました。離婚をやめるよう説得するため、渡航費を親戚に借りて来てくれたのです。

「私が子どもを出産し大変だった時、親は献金を優先し『お金がない』と言って、来てくれませんでした。私の苦労よりも統一協会が大事なんだと知りました。信者になっただけのことではありませんでした」（信者二世編その3 おわり）